

生涯学習概論レポート 5 回答

課題：女性差別の体験や経験（した方でも、された方でも）、見た経験を教えてください

2021年7月6日までの受信名分。文章は整形しています。一部の人へ。段落をつくる、改行後は1文字下げる、日本語の作法をしっかりと実践してほしい。昨年の回答では女子が長文、男子はあっさりでした。今年は逆転した印象です。まだの人はこれから提出してください。期末レポートの一部にすることも可能です。

現状に疑問を感じたら 4 Non blondes の「What's Up」でも聴いてみて

<https://www.youtube.com/watch?v=6NXnxTNIWkc>

日英歌詞

<https://magicbus-magicalbus.blogspot.com/2015/08/what-up-4-non-blondes.html>

<https://red-goose.com/whats-up-4-non-blondes/>

女子の回答11名

私の経験した女性差別

私は、幼い頃から「女の子だから廊下の拭き掃除ぐらいしなさい」と言われ半強制的に廊下の拭き掃除をさせられたり、「将来結婚したら旦那さんに優しくして付き従うような人になりなさい」と言われたりして、女性は家のことを率先して行い、男性に従うのが良いことだという祖母の古い価値観を押し付けられてきました。

また、将来研究職に就きたいと話したところ、「どういった業務内容があるのか、それは生活していくだけのお金を稼ぐことができるのか、女性に不向きなのではないか」と言われたことがあります。これは、研究職について詳しく知らないということも関係しているかもしれませんが、性別を理由の一つに挙げて自分の進路を否定されことに男女の格差や女性差別を強く感じました。

そして、親戚の集まりの際などで料理を運んだり、お皿を下げたりとお手伝いをしたりする中で親戚のおじさんなどにお酒を注いでくれと言われ、お酌をしたところ「将来旦那さんにもこうしてあげるんだよ」と言われお酒を飲む際にお相手するのも女性の仕事という考えを教えられてきました。当時は、酔っ払いの言っていることだと聞き流していたけど、これも女性差別にあたるのではないかと思います。

また、近所に住む大人たちが自分の店を経営していて旦那さんよりも稼いでいるお嫁さんをもつお姑さんがお嫁さんのことを否定的に思っているという話をしているの聞き、旦那さん（男性）が家計を支える大黒柱でないことを嫌悪するという考えに女性差別を感じました。

現在は共働きの家が多いけど、旦那さんの扶養の範囲内の稼ぎになるように仕事を調整するという話を聞くことがあり、社会には女性は男性の立場を立てるように努めるべきだという考えが

残っていてそれが女性差別の一つの要因になっているのではないかと思います。

仕事と家事と育児…両立は当たり前？

家事は女性の仕事であるという考えは、身近な女性差別だと考えます。この考えは、古くからの習慣であり、現代においても言及されない限りあまり違和感を覚えないほど根強く残っている考えです。SNSやバラエティ番組でも、家事のできない女性は女性として見ることができない、男性は仕事で忙しいのだから家事は女性がやって当たり前等の意見をよく耳にします。実際、お正月に祖父母の家に行った際、女の子に生まれたのだから家事をやりなさい、昔から家事は女の仕事と決まっている、男の人はいつもがんばって働いているのだからこれくらい女がやらないでどうするのと良く怒られます。一方で、祖父や父はこたつやストーブで温まりながらテレビを見たりお酒を飲んだりしています。また、祖父母の家以外でも父に家事をやらせるとすごく不機嫌になり、最終的に母か私がやります。私の家は両親共働きなので、家族全員で家事をやればいいのにとよく思います。朝ごはんやお弁当の用意においても同様で、母が父の2時間前に起きて支度を始めており、母も私に大人になったら当たり前だよと言いつけています。

男性の育児についても家事と同様です。近年では、共働きの家庭が増加してきたこともあり、育児に参加する男性が増えてきていますが、この考えが当たり前として時代に浸透してきているわけではありません。家事をやるのが女性の当たり前とされている中、育児や仕事も両立するべきであるという風潮は非常に女性にとって酷な状況です。実際、母も両立が追い付かず、何度か入院をしたそうです。

男女間における考えのすれ違いや昔からの風潮によって生まれてしまい、今もなお根強く残っている生活における女性差別について、完全に消滅するのは難しいと思いますが、もう少し軽減されると男女ともに過ごしやすい世界になるのではないかと考えます。

予備校時代の悲しい思い出

私は、大学受験の為に高校2年生の終わり頃から地元の予備校に通っていた。最初は、生物系のチューター(担任)だったのだが、面談時の志望大学に合わせてチューターが変わった。その担任は、変わった当初から距離が近かった。割と馴れ馴れしく学校のことについて聞いてきた。最初は特に気にしてはないが、時が経つにつれ、次第に距離が更に近くなった。ある日、担任と自分の足が当たり、私は軽く謝罪したのだが、その担任は、足を絡ませてくるようになった。その日を境に度を越えたスキンシップをするようになる。

1番衝撃的だったのは、夏休みの模試を受けたときだった。その日は、所用があり、他の生徒とは違う別室受験することになった。私と担任しかいない空間ができてしまい、それを逆手に取って担任は、私に抱きついたり、頭を撫で回すような仕草をした。流石におかしいと気づき何人か周囲に相談したが、残り数ヶ月なので、そのまま受験期を迎えた。

まだ担任はその塾に勤務しているが、後輩たちが、セクシャルハラスメントの被害に遭わないことを願う。

担任の「女の子らしさ」による、あぐらの禁止。

高校の時のクラス担任は女子生徒があぐらで座っているところを見ると「女の子なのだから辞めなさい。」と注意することがよくありました。しかし、学校全体では全校集会や学年集会などの場に制服で出席するルールとなっていたこともあり、女子生徒はスカートの中が見えないよう、あぐらで座るように指導されていました。そのため、集会時は学校の指導に従い、その他の集会時を除いた担任が見ているところでは、クラス担任の「女の子らしさ」に従って座るようにしていました。あぐらで座る行為が、スカートの中を見せないようにする為だけに許されているのはおかしいと思います。また、クラス担任の「女の子らしさ」に従う必要があったのか、今では疑問に感じています。

義肢を付けた女性差別について

ここ数年で良く取り上げられている女性差別問題の例として、前東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長の森喜朗が取り上げられると思います。今回は小学校の時の担任の先生についてです。

その先生は、小学生の頃に事故の影響で右腕を失ってしまい義肢を付けています。しかし私も義肢を付けた経験もありますし、あの頃の小学校の人達はみんな気遣っていました。しかし義肢のせいであまりいい思いをしない人がいました。当時の同窓会副会長の人が「気持ち悪い」「女性ではなく機械」といった女性だけでなく義肢を付けた人達も侮辱した発言をしていました。当時の私は可哀想と思っていただけですが、今考えてみれば女性差別の問題として改めて考えなければならないと思いました。

「女性に対して」

この話は、私の友人から聞いた話です。友人は、工業系の学校に進学しており、将来の就職先は大手企業の溶接担当に就くことでした。しかし、募集要項をみると女性社員の募集は受け付けないとのことでした。女性労働基準規則によって、妊娠や出産・授乳機能に影響のある25の化学物質を取り扱うためという理由でしたが、友人の第1希望の就職先でしたので、残念がっていました。また、面接先でも、女性が少ないことから、質問内容が「工業の男性ばかりの中で困ったこと、良かったこと」「周りは男性ばかりですが大丈夫ですか？」など聞かれて、戸惑った話を聞きました。この話は、人によっては差別に近いと思ったり、また女性に対して優しいのでは？という考えがあったので、取り上げてみました。

見聞きした女性差別

私が女性差別を受けたという経験がない為、ニュースなどで見聞きした女性差別を記載することにしました。よく聞く事は社会における給料や、待遇の格差。会社内における女性に対するセクハラ等の身体的にも精神的にもダメージを残してしまうような扱いの差、女性政治家の少なさ、大学入試において女子受験者から一律で減点を行い、女子受験者の合格者数を意図的に減らしていた問題など、改めて様々な問題があることを思い出す事ができました。

女性差別を見た体験

ゲームをする時はいつも女性差別に遭うことがあります。ゲームに負けると女性チームの悪口を言います。

家の仕事は暇な人がやるべき

私には兄がいますが、実家にいるといつも私ばかりが雑用をさせられます。明らかに兄のほうが暇そうにしているときもです。なぜ私ばかりなのかと父に聞いても「お前は女だろ。」と言われて終わりです。女だからなんだというのでしょうか。家の仕事は暇な人がすればいいと思います。これだけはいつになっても理解できません。

ホタテバイトでの賃金の差、家で母の立場を見ていて感じたこと、女性に求める美

ホタテバイトでの賃金の差

ホタテバイトの稚貝放流の作業では、女子と男子が同じ作業内容にも関わらず時給に200円の差があった。今年の作業で女将さんと親方さんに相談を持ち掛けたことで同じ金額にすることが出来たが、昨年までは毎年差があったという。漁業や農業の現場では家族で作業を行う場合がほとんどである。そのため、家長の男性の方が上だという認識があり、女性差別の考え方が根強く残っていると思われる。

家で母の立場を見ていて感じたこと

育児、料理、洗濯、多くの家事を母親が行っていた。父はほとんど家事を行うことはなかった。父方の祖父と同居していたが、食事の際には父と祖父ばかりが話しており母や私は会話に入っていなかった。また、女性が家事をし、男性は働きに出ることが一般的であり、逆のパターンは少ない。「イクメン」という言葉も生まれたが、親として育児に参加することは当たり前ではないのか。女性が育児をし、家事をしてもそのように呼ばれ称えられることはない。男性と女性の家庭でのあり方をもう一度考え直すべきである。

女性に求める美

高校生のころ、男子が女子に対して「美」を求めている場面を見かけたことがある。化粧をしていて当たり前、脱毛をしていて当たり前、そのような言葉をよく聞いた。可愛い子には優しくし、可愛くない子は裏で悪口を言われていた。女子の性格や努力していることなどは評価せず、外見だけで評価していた。そのような場面に遭遇するたびにいやな気持ちになり、自分も悪口を言われているのではないかと感じていた。女子の内面に目を向けるようになってほしい。

日常の中にある女性差別

社会出ると女性は、最低限のマナーとして公共の場では化粧をしていることが求められる。実際に、街中に行けば、ほとんどの女性が化粧をしている。一方で男性がそのようなことを求められることは少ないだろう。少なくとも、私は見たことがない。もはや常識として蔓延っているように思う。化粧の例に限らず、家庭の立ち位置や、会社での役割など日常のあらゆるところで、女性はこうあるべきだという決めつけがあるように感じる。言葉では説明しづらいが、女性であるがゆえに軽んじられていると感じる場面は多々ある。

男子の回答16名

風潮としての女性差別

部活動の部長を決めるときになるだけ部長は男子生徒にやってほしいというような風潮を感じることがあった。このように女性社会的に見ても一般職や事務職として採用されるケースが多く、重要な役職は男性であるケースが多いと考える。

「女性差別」という言葉の便利さ

私の家族は母、祖母、曾祖母が強く、中高生の頃は吹奏楽部で部員の8割が女子という女性の立場が強い環境で過ごしてきたため、女性差別を目の当たりにする機会がなかったのですが、ジェンダー問題の全てに「女性差別」という言葉を用いる風潮には違和感を感じます。確かに「女性差別」という言葉は、目を引く単語ではありますがし、ジェンダー問題に関心を持つ発端にはなるのかもしれませんが。しかし、ジェンダー問題は決して「女性差別」のみで語れるものではありません。

「女性差別」の一言では語れない問題の例として「女性の職業選択の自由」があります。しかし、大工や漁師などの肉体労働の比重が大きい職業を行うのは筋肉量が多い男性の方が適しており、男性を優先するのは、儲けを得るためには至極当然であると考えます。これは偏見や慣習などのジェンダーの観点から女性の採用を減らしているのではなく、生物学的セックスの観点から見て、より役立つ人材を選んでおり、これを「女性差別」と呼べるのかは疑問です。同様の問題に先日、トランスジェンダーの選手が女性として初の五輪出場を決め、同じ大会に出場した女性選手が疑問の声を上げたというニュースがありました。これも先ほどと同様、女性の競技に身体が男性の選手を出場させ、五輪の出場権を奪ったという点が疑問視されており、セックスとジェンダーの問題を混在してしまったがゆえに起こったと考えています。

もちろん、女性の社会進出は決して妨げてはなりません。以前起こった東京医大女子一律減点問題は、ジェンダーの領域で起こった明確な「女性差別」であり根絶しなければならない悪しき慣習です。しかし、性差によって生じる女性への不利益を全て「女性差別」と呼ぶのは間違っており、それがジェンダーの問題なのか、はたまた生物学的セックスの問題なのかを吟味する必要があります。

日常生活では女性差別は特に見ない

メディアでは経済や教育、政治などの分野でよく女性差別について取り上げられているのを見るが、実際にはこれまでの人生の中で顕著な女性差別を実際に見たことがない。軽度なものはあれど、それは差別といった悪い印象を与えるものではなかった。

差別だと感じたことといえば、逆に、力仕事や汚い物の処理は男の仕事だと任されたり、物事を決める際には男性は優柔不断であるべきではないという考えを女性に押し付けられ選択を急かされる、理由は不明だが女性を優先させる時があったなど、男性が不利な場面を見てきました。

なくならない環境による女性蔑視

私は小さいころ、車に乗っていた時によく父からこぼれたその言葉を耳にしていた。『あの運転の仕方は女だな』私が幼稚園に入る前からよく聞いていた言葉である。当時はわたしも小さく、当たり前のように耳にしていた単語だったので、違和感を持ちつつもそれほど気にしたことがなかった。私自身も父からなぜ女性が嫌いなのかをよく聞かされていたので、女性はあまり好きではない。今思えば実際男性も女性もそれ程変わらず、性別が同じだから多少受け入れられるというだけのことなのだろうと思う。だが、小さいころにすりこまれた差別意識はなかなか抜けず、思考の外で感情として出てくることもままある。祖父も昔堅気な人だった。父もまた、私のようにすりこまれて今に至るのだろう。こういうものは、日ごろから自分をよく見ているか、周りから指摘を受けなければ気づかない。気づいたものから改善し、改善させていかなければ、何代重ねても変わらないのだと、今の私は思っている。

就職での女性差別

自分が男性ということや、兄弟も男2人ということで、家庭では男の子だからこうしなさいと言われた事はないように思う。家では、料理の練習もさせられるし、アイロンかけやボタン付けもする。学校では、家庭科の調理実習で、役割分担の時に、女の子が包丁で切る係で、男の子は混ぜるとか洗い物をするとか、簡単なことしか、させてもらえなかった。でも、それが逆に嫌だと感じる女の子もいたと思う。

女性差別ではないのかもしれないが、女性が犯罪を犯したときや、被害に遭った時などのニュースでは、医師の場合は「女医」とか、教師の時は「女性教師」など言われているのを耳にする。これは昔も現在も変わってないと思う。疑問に思っていた。

これから就活活動をする時期がいずれ来るが、就活で男女差別を受けたと言う声がたくさんネットに上がっている。女性はどうしても出産があるので、仕事に対しての影響が大きいと考えられがち。だから、男性の方が、将来的に長く働く可能性があると判断されるのだと思う。

母が、女だからって料理と裁縫ができると思うな！とか言っているが、職場で、皆同じ仕事をしていても、女性には通常の仕事に加え、お湯を沸かす、お茶を入れる、弁当の注文をするなどがあるという。職場によっても違うと思うが、それはどこに行っても変わらないと聞いた。むしろお茶を入れる仕事をなくしたら、あの人は何の仕事をするの？と言われる職場もあるらしい。女性も男性も関係なく、自分が本当に受けたい企業を受けられるような風潮になってほしい。

職業における性差別

母の友人の女性がタクシー会社に転職をした時に聞いた話です。タクシー業界は男社会でその会社は女性の採用をしていなかったそうです。ここだけ聞くと差別的と感じますが、タクシー会社としても女性用トイレの増設や更衣室の設置など、今まで必要なかったものをしなければならず、その費用が課題としてありました。結果としては、設備の整った別の会社に就職をし、女性の常連客に気軽に乗車することが出来ると指名されるようになり、人気になったそうです。

また、私の通っていた保育園では当時保育士は女性しかいなかったのですが、中学生の時に職業体験で保育園を訪れた際、男性保育士が数名いることに驚くとともに時代の変化を感じまし

た。

男性がやる職業、女性がやる職業など性別によってイメージがある職業も、近年薄れだしています。男女の区別なく互いが互いを気遣い、気持ちよく暮らせる社会を作るためにも、我々の中に潜む常識や偏見を意図的に無くしていかなければいけません。

女性の仕事

女性は力仕事は向いていないとよく言われていますが女性でも力がある人はたくさんいます。そして、女性はなぜ手が繊細と言われるのでしょうか。このことは、男性でも女性でも言えることだと思います。

日本での女性差別

日本では古くからの風習である男性が働き、女性が家を守るといった考え方が未だに残っているという話を耳にします。

そのため男性が仕事から帰宅しても、家事や子育てを手伝わないそうです。共働きの家庭ではもっと大変だと聞きました。

育休を取ろうにもその制度が浸透しているとはいえずらく、女性が育児をするといった差別的な考え方を増長させていると思います。

また近年ネットやテレビで頻繁に目にするCMにも問題があると思います。女性向け脱毛クリームやダイエットサプリなど、女性はこうあるべきという一種の理想像や価値観を押し付ける形になっています。これも差別にあたるのではないかと思います。

なぜ女性は仕事を昇進できないのか

親戚の女性が職場の上司に結婚や出産、育児などからいずれ退職するだろうと決めつけられ、仕事を昇進できないということがあった。実際、統計的に女性の結婚後の退職率が高く、昇進意欲が低いことから女性管理職率の割合が低いことが明らかとなっている。しかし、内閣府による世論調査では、子供ができて職業を続ける方が良いと女性が職業を持つことに肯定的な考えを持っている割合が年々増加傾向にある。また、家計的な事情や社会的な繋がりがほしいという理由から働きたい、昇進したいと考える女性もいる。女性に対する偏見を無くし、女性の意志を尊重して男女平等に働けるような社会にしなければならないと思った。

女のくせにクレーム対応？

これは私の母親の話で、母がまだ一般企業に勤めていた頃の話だそうです。ある企画のコールセンターを担当していた母は、その日お客様からのクレームが来たそうです。

しかしそのクレーマーは電話に出た母に対し、「女のくせに黙っている。責任者を呼んでこい」と言われたそうです。25年近く経った昔のことだそうです。今でもなお覚えている誹謗中傷であったと言っていますし、私も聞いていて酷い言動だなと感じました。相手への思いやりも持てない自分勝手な人間が、どれほどのたくさんの人へ傷を負わせるかを忘れてわいけなかったと思います。

女性だからといって給料の低い職場

男性と同じ仕事内容、労働時間なのに給料は女性のほうが低いという職場を見たことがあった。

女性の順番

私が女性差別を短で見た経験は私の親戚の家がある岩手県に親戚の葬式に参加した際に見て女性差別だと感じたことについてです。この葬式では亡くなった方の直接の兄弟関係にある人から順に並んでお葬式の儀式をする会場まで並んで移動するという決まりがありました。

当然に血縁の近い兄弟が優先となって歩くため前列の多くが男であり女性が後ろについて行く形で参列しました。この時、受け取る人にもよりますが私は男女間に性差を感じ何となく不快な思いをしたと感じました。

またこれだけではなく葬式が3日にわたって行われたために宿泊先として親戚の家にお邪魔させていただきました。ですがここで宿泊した際のお風呂の入浴がなぜか男が優先となっていたため、泊まらせていただいた家主の奥様よりも先に風呂をお借りしたのには驚きと同時に明らかな優劣関係を感じ、その不快感から小学生だった私も差別という感覚を明確に感じました以上です。

賃金格差

私の母親はパートとして働いています。そこには、男性のパートさんも多く、仕事内容は男性女性に関わらず同じだそうです。しかし、給料は少し男性のほうが高く、不満があると言っていました。仕事内容は同じなのに給料になぜ差が出るのか。まず、会社側はこの理由を皆が納得できるように説明しなければならないと思います。説明できないのであれば、給料に差をつけてはいけないと思います。

女性差別を見てきて

私が過去に見たことのある女性差別では女性は料理ができる、女性だからスポーツで男性の足を引っ張る、女性なのに男性に似ているなどの差別問題がありました。

始めに、女性だから料理ができると問題になったのは中学校の家庭科の授業で起こりました。授業課題で何人かのグループに分かれて料理の献立を考え実際に調理する課題でした。私が配属されたグループでは全体で話し合っただけで料理の献立を考えていましたが、別のグループの男子生徒が料理は女性の方が上手だから女性に任せると話していました。その内容はそのまま聞き流されていましたが女性の中でも料理の得意不得意があると感じていました。

次に、女性だからスポーツで男性の足を引っ張ると問題になったのは小学校の体育の時間でした。授業内容は二つのグループに分かれてドッチボールをする内容でした。私が配属されたグループでは、女性は球を投げるスピードや球を避ける速さが男性と比べて劣るから男性は内野、女性は外野で活動した方が勝ちやすいと話になりました。女性の方は少し意見していましたが数が多かった男性の話にほとんどまともな返事がありませんでした。女性の中でも運動神経が男性よりも高い

女性はいるので話の内容に違和感を覚えていました。

最後に、女性なのに男性に似ていると問題になったのは小学校の頃の話です。私は学校が終わり友達と遊んでいた時でした。私の友達が学校のクラスにいるひとりの女子生徒について話し始めました。内容はその女子生徒は容姿が男性のようで女性っぽくないと言うものでした。私は友達の話に共感をしましたが後々考えてみれば女性だからと見た目が男性に似ていたことを話題にしたのは差別的であったと心の中で反省していました。

以上が私の見てきた女性差別の話です。

女性差別で強く印象に残った経験

女性差別を見た経験として強く印象に残っているのは、大相撲で土俵の上に救命のために上った女性に対して土俵から降りてくださいというものだ。

これは土俵の上で市長があいさつの途中で倒れてしまい命が危険な状況になった際、救命のために土俵の上に上がったところ相撲協会の人を下りなさいなどと言い一時期ニュースなどで大きく話題となった。土俵の上には女性は上がってはいけないこと自体、相撲の伝統とはいえ女性差別になるのではないかと思う。しかも人命にかかわるような緊急事態に勇気を出して救助に向かったのにこのような仕打ちはひどいと思った。

女性のかよわくなければならないのか

「女性のかよわい」という無意識なイメージや、それを理想とする人は少なからず存在する。そこから生まれる差別は女性の思考や行動を著しく制限してしまう場合がある。もちろん好みは人それぞれのため自由な選択が許されるべきだと思うが、私が高校生の時にこのような女性差別を受けた友達がいた。

その友達は小学生の頃から合気道を習っていたが、特にそれを隠すことなく話していたため私も知る機会があった。その事を聞いた時、素直にかっこいいと思った。私自身が武道に縁がないのもあったし、その頃嫌々習い事をしていた私にとって楽しそうに合気道について話す友達が輝いて見えていた。しかし「武道を習うのは男性的だ」と感じる人は一定数いるようで、それに嫌悪感を抱く人もいる。彼女が合気道を長年習っているという情報が周りの友達に広がっていくと、その友達のあいだでは軽い冗談のつもりであろうが、「近づいたら投げられる」や「簡単に人を殺せそう」といった発言が飛び交うこともあった。

彼女がその発言についてどう思っていたかは私は分からないが、いい気分にはならなかったであろうと思う。また、友達だけではなく習いたての頃は両親にも反対されていたことも私には話してくれていた。その時は護身術だから習って損は無いという理由をつけて誤魔化したそうだが、本当はピアノを習って欲しかったと言われたという。このようなこともあり、そうしてしばらくしてから彼女は自身の習い事について公に話すことをやめてしまった。この経験は、私が女性差別について考えるきっかけとしては十分過ぎたし、その時彼女に何も言ってあげられなかった自分を情けなく思う。前述したが、このような女性はあるべきだという社会のイメージは、女性の生きずらさに直結してしまうのだなと強く感じた。